

令和6年度 授業改善推進プラン（小学校学級担任用）

福生市立福生第一小学校 第6学年1組

1 福生市学力・学習状況調査の結果				
	分類	意識調査の質問項目	組	全国
学びに向かう力	感情のコントロール	8 家の人は自分のことを気にかけてくれていると思う	79.2%	92.6%
		53 自分には、先生や友だちからほめられるような得意なことがある	79.2%	75.6%
		54 自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う	95.8%	92.2%
	目標の達成	18 ふだんから「不思議だな」、「なぜだろう」と感じることもある	62.5%	70.2%
		26 ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある	87.5%	91.2%
	他者との協働	107 わたしは、友だちの心をきずつけることを言ったり、からかったりしていない。	62.5%	76.8%
	学力と関係が深い質問	42 授業を集中して受けている。	87.5%	84.6%
		53 自分には、先生や友だちからほめられるような得意なことがある。	79.2%	75.6%
83 国語の授業で、文章の書き方のよい例を参考にして書くことがある。		75.0%	73.8%	
領域名	学力調査の分析 ○成果 ▲課題			
国語	言葉・情報・言語文化	▲全国平均正答率を19.4ポイント下回り、(同じ組み立ての熟語を選ぶ(電力))設問に課題がある。		
	話すこと・聞くこと	▲全国平均正答率を8.8ポイント下回り、(中川さんの発表の工夫を選ぶ)設問に課題がある。		
	書くこと	▲全国平均正答率を23.2ポイント下回り、(人物像についての会話の空欄に入る言葉を書く)設問に課題がある。		
	読むこと	▲全国平均正答率を19.3ポイント下回り、(文章についての説明として正しいものを選ぶ)設問に課題がある。		
算数	数と計算	▲全国平均正答率を20.8ポイント下回り、(1/6+7/8を計算する)設問に課題がある。		
	図形	▲全国平均正答率を15.1ポイント下回り、(直方体を組み合わせた立体の体積を求める)設問に課題がある。		
	変化と関係	▲全国平均正答率を11.2ポイント下回り、(円柱の展開図で側面の横の長さを選ぶ)設問に課題がある。		
	データの活用	▲全国平均正答率を9.8ポイント下回り、(みかんの産出額がなしの何倍かを求める)設問に課題がある。		
2 児童の実態		3 児童の実態を踏まえた授業改善の取組		
<p>・国語の漢字の小テストでは、家庭で練習をしたり、テストの直前まで見直しをしたりと努力する姿勢が見られ、良い点を取る児童が多い。しかし、「言葉・情報・言語分野」の領域の平均正答率は低く、定着は十分ではない。また、筋道を立てて、文章を書くことが苦手な児童が多く、意識調査から苦手な児童ほどよい例を参考に文章を書くことができていない。</p> <p>・算数では、課題に対し自分の考えをもととじっくりと考えることができるようになってきた。課題となっている「数と計算」の領域も、計算方法の手順を理解し、練習を繰り返すと単元テストでよい点を取る児童が増えた。一方、「図形」の領域は苦手意識の強い児童が多い。</p>		<p>・国語の漢字の学習では、努力する姿勢を認めつつ、小テストの返却時などに漢字の意味や使い方を解説する。また、文章を書く学習では、手本となる文章を準備し、苦手な児童は手本を参考にしながら、書くことができるようにする。その際、既習した漢字は活用するように促す。</p> <p>・算数では、基本的な計算方法について随時解説を行い、正確に計算する力を伸ばす。また、自分の考えのよさを実感できるよう、グループでの活動を取り入れ友達とよいところを認め合ったり、教師が児童の考えを全体に伝えたりする。さらに、「図形」領域の単元では、学習に必要な知識を復習するなどして確かなものにしてから新しいことを学べるように授業の展開を工夫する。</p>		
4 ミライシードとの連携機能を活用した取組				
個別ドリルの実施状況		令和6年8月末時点で完了している児童	100%	(24人/24人中)
確認テストの実施状況		令和6年8月末時点で完了している児童	100%	(24人/24人中)